

石川県立美術館だより

平成13年10月1日発行 第216号

花と緑の 自然との対話

名品展

第18回全国都市緑化いしかわフェア協賛

九月二十九日(土)～十月二十八日(日)

会期中無休

午前九時三十分～午後五時
(入館は四時三十分まで)



県文 蒔絵螺鈿秋月野景図硯箱 五十嵐道甫 江戸17世紀 当館蔵



春宵 加山又造 昭和60年 第12回創画展 個人蔵

演題 日本人の自然観
| 近世絵画の花鳥風月をめぐって |
講師 冷泉為人氏 (池坊短期大学学長)
冷泉家二十五代当主)
日時 九月三十日(日)午後一時三十分
会場 当館ホール

講演会 聴講無料

目次

花と緑の名品展	2	美術館小史・余話(15)	5
花と鳥の世界(前田育徳会展示室)	3	貸出中の所蔵品、企画展示室	6
花と鳥の世界(第2展示室)	3	図書閲覧室NOW、美術館の本他	6
常設展示室 主な展示作品	4	企画展TOPIC、十月の行事案内他	7
第31回文化財現地見学	5	所蔵品紹介、ミュージアムショップ 通信	8

常設展示室で音声ガイドサービスを開始!!

ホームページアドレス <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

花と緑の名品展

- 自然との対話 -

9月29日(土)~10月28日(日)会期中無休

主催/石川県立美術館・北國新聞社



秋草図
喜多川相説
江戸 17世紀 当館蔵

(右隻)



(左隻)

本展覧会は、平成十三年九月八日から十一月十一日まで、金沢城址公園を中心に兼六園周辺文化ゾーンを主会場とする「第十八回全国都市緑化いしかわフェア」に協賛して開催されるものです。そこで、兼六園周辺文化ゾーンの中心施設でもある当館では、今回の全国都市緑化フェアのテーマである「人とみどりが織りなす文化のくにづくり」に添い、日本人が自然との間で織りなす美意識が鮮明に表現された美術工芸の名品を選び、すくって展示することになりました。

すなわち、自然の中でもとりわけ花と緑を主題にした美術作品の中から、古美術から現代までの、時代と分野を超えて受け継がれてきた豊かな感性が結実した成果を堪能していただくこととするものです。

具体的には、絵画と工芸の各分野から美術史で高い評価を得ている名作や、現代作家ではそれぞれの代表作がならぶことになり、日本美術そのものを理解するにもふさわしい内容となりました。

その内訳として、古美術では国指定の重要文化財が四点、石川県指定有形文化財が六点含まれています。また現代作家では、文化勲章受章作家が十二名、日本芸術院会員が十八名、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝が十六名を数え、中には富本憲吉と松田権六のように以上の三つの榮譽を総て持つ作家もいることから、数字は重複していますが、それにしても日本画・油彩画・工芸の異なった分野から、それぞれを代表する作家とその優れた作品が一堂に会することはめったにはありません。

その意味で、今回の総出品点数は百三点ですが、一部展示日数の制限がある作品も含まれていることから、展示替を行なわざるを得ませんが、常に展示室ではちよつと百点の作品が陳列されているように構成します。文字通り「百撰展」と言つのにふさわしいものとなっています。

加えて、日本画・油彩画・陶磁・染織・漆工等の異なった表現技法とともに、屏風・能装束などさまざまな形体的変化に富んだ個々の作品は、当然技術と表現はとも一流のものばかりですが、何と云つても日本人の愛する花や緑が理屈抜きに楽しめるものとなっています。

そして、今回は二階常設展示室でも、「都市緑化いしかわフェア」に協賛する展示をしていますので、あわせてご覧いただくことで、長い間に培われてきた日本人の自然から享受してきた美の世界にさらに親しんでいただければ幸いです。

最後に、本展覧会の開催が、今日問われている自然との共生、すなわち自然環境へのいたわりと敬意を改めて思い起こす、ささやかな一助となることを願うものです。

表紙及び参考図版掲載以外の主な出品作品

- | | | |
|---------------|-----------|------------|
| 光悦色紙貼交秋草図屏風 | 本阿弥光悦筆 | 個人蔵 |
| 吉野山図屏風 | 渡辺始興筆 | 個人蔵 |
| 夏秋草図屏風 | 酒井抱一筆 | 東京国立博物館蔵 |
| 茶地霞楓文唐織 | | 個人蔵 |
| 葆光彩磁チューリップ文花瓶 | 板谷波山作 | 当館蔵 |
| 漆絵梅文椀 | 松田権六作 | 東京国立近代美術館蔵 |
| 友禅訪問着 | 花の泉 森口華弘作 | 個人蔵 |
| 豊粟 | 土田麦僊筆 | 宮内庁三の丸尚蔵館蔵 |
| 炎昼 | 牛島憲之筆 | 京都国立近代美術館蔵 |

観覧料(常設展示室を含む)

個人		団体(20名以上)		
一般	1,000円	一般	800円	
大学生	600円	大学生	400円	
高中小生	300円	高中小生	200円	

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金でご覧になれます。



光の河と花の染譜
平成9年 芝田米三 個人蔵



彩斑花瓶 夏日
東京国立近代美術館蔵

さくらでんくら
桜螺細鞍
鎌倉 13世紀
文化庁蔵



ひょうもんすずき
平文薄の棚
大場松魚
昭和5年
当館蔵



常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

花と鳥の世界

9月28日(金)~10月28日(日)

花と鳥に限らず、草木や虫、小動物、魚藻、蔬菜なども対象に、またそれらを組み合わせた絵画を、一般的に「花鳥画」と呼び、人物画や山水画と並んで東洋で最も重んじられた画題の一つです。

中国では、五世紀、南朝時代に宮廷で扇に蝉や雀を描くことが流行したのにはじまり、後に唐時代から五代にかけて専門の画家が出現し鑑賞画として確立します。宋時代には、宮廷の画院による院体花鳥画が興隆しますが、後期になると画院の衰退に伴い、在野の文人や僧侶の画家が台頭し活躍、花鳥画も再び隆盛します。

日本では、鎌倉時代の終わり頃、渡来した禅僧たちの影響を受けて、水墨による花鳥画が描かれました。室町に入ると、院体花鳥画を範とした詩画軸の絵画が好まれ、やがて花鳥画として独立した形態が取られるようになります。桃山時代に入ると、狩野派や長谷川派による大画面の障壁画として描かれ、江戸に入るとさらに琳派、円山四条派など諸流派の主要な画題の一つとして重要な位置を占め、明治以降も日本画家の伝統テーマとして今日に至っています。

今回は、前田育徳会に所蔵されている「花鳥画」、すなわち花と鳥の世界をテーマとした展示です。

まず中国元時代十四世紀の王若水筆「花鳥画」三幅対の大作、そして室町水墨画の大成者雪舟筆と伝えられる重要文化財「四季花鳥図屏風」、これらは大名道具にふさわしいものです。その他、江戸中期の山本梅逸筆「林和靖・花鳥図」三幅対、前田家お抱え絵師の六代梅田九栄筆「鷹狩図」四巻のうち秋の景一巻、それから博物学的観点からも貴重な「鳥画帖」三帖のうち一帖、明治に入つての村瀬玉田・野村文挙・瀧和亭・川端玉章による「四季花鳥図」四幅対など、中国、日本の「花鳥画」の多彩な展開が楽しめます。

「花」と「鳥」。例えば、東洋画ではあわせて「花鳥画」と称される画題ですが、それらは絵画に限らず、工芸作品から詩歌文芸に至るまで、広く創作の題材として古来より用いられてきました。そこには「花」と「鳥」を愛でる心や、観察しようとする好奇心があったことはもちろん、人々の心の表象がうかがえます。本特集では、これら「花」や「鳥」をモチーフにした作品を紹介しますが、ここでは出品作品の中から二点を取り上げ、「文学」との係わりについて少し述べてみましょう。

時絵和歌の浦図見台 伝清水九兵衛
若の浦に 潮満ち来れば 瀉を無み

葦辺をさして 鶴鳴き渡る 『万葉集』

八世紀に成立した『万葉集』で既に詠まれるように和歌浦(和歌山県和歌山市)は景観の美しい名所として親しまれてきました。絵画や工芸作品では、歌に詠まれたいくつかの歌語を意匠化し、それらを組み合わせることで、その名所を表す「見立て」の手法がよく用いられます。本作品では、細かく波立つ「潮」・その波間より覗く「葦」・舞い上がる「鶴」を表すことで、和歌浦を見立てているのです。

染付錆絵社若図茶碗 尾形乾山
から衣 きつつなれにし つましあれば

はるばるきぬる 旅をしぞ思ふ 『伊勢物語』

物語の主人公である男は京都より東へ向かう途中、かきつばたの美しい八橋(愛知県知立市)へ立ち寄ります。この歌は、八つの橋が架かるその川のほとりで、「かきつばた」という五つの文字を句の上にする旅の心を詠んだものです。

近世に入り、これを大胆に絵画化したのが、国宝「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)で知られる尾形光琳です。弟である乾山も同様にそれを主題とした作品を残しています。江戸時代、既に八橋はなく、かきつばたも失われていましたが、当時の人々は、かきつばたよりその場を思い、遠く『伊勢物語』の世界へ思いを馳せたのでした。

常設展示室(第2展示室)

特集

花と鳥の世界

9月28日(金)~10月28日(日)



染付錆絵社若図茶碗 尾形乾山



時絵和歌の浦図見台 伝清水九兵衛

常設展示室

主な展示作品

9月28日(金)~10月28日(日)

● = 国宝 = 重要文化財
= 石川県指定文化財



ロッシユ展望 田辺栄次郎



色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷

前田育徳会展示室

特集 花と鳥の世界

花鳥図

四季花鳥図

女三十六歌仙色紙雉図屏風

林和靖・花鳥図

鷹狩図

鳥画帖

四季花鳥図 村瀬玉田・野村文孝・瀧和亭・川端玉章

紫檀鷹時絵刀掛

伝雪舟等揚

王若水

山本梅逸

六代梅田九栄

第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

野々村仁清

野々村仁清

第2展示室 (古美術)

古九谷

色絵鳳凰図平鉢

色絵百花散双鳥図平鉢

色絵鷺鷥流水図平鉢

特集 花と鳥の世界

蒔絵和歌の浦図見台

柳鷺図屏風

飴釉烏香炉

染付錆給杜若図茶碗

黒釉蒲公英図茶碗

伝清水九兵衛

狩野尚信

初代大樋長左衛門

尾形乾山

尾形乾山

尾形乾山

第3・4展示室 (油彩画・彫塑・造形)

特集 館蔵優品展

油彩画

鋭角の雲

1982年 私

パラダイス

フィードの女

夏山

《田辺栄次郎 緑の叙情》

リヨンの丘

セーヌ川遠望

ロッシユ展望

彫塑・造形

青年

勝本富士雄

鴨居 玲

清水錬徳

高光一也

宮本三郎

竹下慶一

第5展示室 (工芸)

特集 館蔵優品展

草笛

白銅浮彫「聖歌の碑」

漆工

庭の草道 沈金彫手筈

蓬萊之棚

染色

友禪白金茶焦茶桐文訪問着「初秋」

砂張銅鑪

加賀象嵌四季の花飾壺

木竹工

櫻造盛器

桑造金銀縮れ線象嵌軸箱

玉蜀黍群虫図

籠の牡丹

飯面舞踏会

竹梅図

おぼる夜

花車

寂寞

皓

中島東洋

蓮田修吾郎

板谷波山

吉田美統

前 大峰

松田権六

談議所栄二

羽田登喜男

魚住為楽

高橋介州

川北良造

水見晃堂

木村雨山

黒田櫻の園

坂根克介

鈴木華邨

中町 進

羽根万象

原田太乙

曲子光男

一般	350円	個人	一般	280円	団体 (20名以上)
大学生	280円		大学生	220円	
高校生以下は	無料		高校生以下は	無料	
		観覧料	今月の常設展示は第18回全国都市緑化いしかわフェア協賛です。		



玉蜀黍群虫図 木村雨山



蓬萊之棚 松田権六



青年 竹下慶一

第31回文化財現地見学 舞鶴・福知山の文化財を訪ねて

参加者募集

期 日 十月二十日(土)～二十一日(日)

一泊二日、宿泊は福知山市。

参加費 一四、〇〇〇円

募集定員 四十五名(対象は原則として成人)

見学予定地

- 金剛院(舞鶴市)
- 高丘親王創建。深沙大將立像(快慶作・重文)他
- 円隆寺(舞鶴市)
- 行基創建。三体本尊(阿弥陀如来坐像、薬師如来坐像、釈迦如来坐像、以上すべて重文)他。
- 舞鶴市立赤レンガ博物館(舞鶴市)
- 平成五年開館。旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫(市文)を改装。レンガをテーマとした世界初の博物館
- 照福寺(綾部市)
- 含勝庭(枯山水庭園・名勝)
- 天寧寺(福知山市)
- 絹本著色十六羅漢像(重文) 龍の鱗(天井絵)他。
- 観音寺(福知山市)
- 通称丹波あじさい寺。丹波西国第一番札所。本堂、鐘楼(ともに府文)他。

お申し込みの方法

例年参加ご希望の方が大変多いため、事前に参加希望者全員の立ち会いのもとで厳正な抽選を行い、申し込み者を決定させていただいております。当選の方は

その場でお申し込みを受け付けたいです。今回の抽選会は十月十四日(日)の予定です。ご希望の方は当日午後三時までに当館ホールへ直接ご来場下さい。

注意

抽選会出席者以外の方のお申し込みは一切お受けいたしません。

参加希望者一名につき、必ず一名ご来場下さい。

友の会会員の方は会員証を必ずご持参下さい。

当選後、参加の権利をキャンセルされる場合は必ず当館へご連絡していただきます。その後当館より、キャンセル待ちの方へ順番に参加権をお譲りしていきます。

二日間にはわたり長時間のバス移動があり、また相当の距離を歩くこととなります。特に今回見学を予定している金剛院と天寧寺は、とても急で長い石段も登ります。移動と観覧時間には十分配慮いたしますが、お身体の具合、特に足腰に自信のない方は、今回の参加をご遠慮下さい。



昨年度の文化財現地見学(上・勸修寺、下・安楽寿院)

美術館小史・余話 15

15

嶋崎 丞すずむ 当館館長

美術館の仕事の中心は、美術品の展示にそれがあることはいうまでもないが、一方で調査研究業務も重要な事柄の一つである。昭和三十四年に開館し、古美術を中心に、それなりの展示活動を行ってきたが、気が付いてみると、石川の地域にどのような美術品や文化財が存在しているかということについては、全く気を払ってきていない。そこで地域の人々と交流を深め、地域に所在する優れた美術品や文化財を再発見しようということ、文化財の所在総合調査を実施することになった。開館してから七年目の昭和四十一(一九六六)年のことである。この頃美術館が単独でこうした調査を実施している所は、まだ皆無であった。

さて実施することにはなったが、美術館には車がな。調査員も私を含めてわずか二人だった。そこで足を確保すること、スタッフを充実させる意味で、調査対象地域の市町村教育委員会と共催して実施することとした。しかし当時は今日のような車社会ではなく、教育委員会によっては専用車をもっていない所もあった。今考えれば随分と強引なやり方で実施したもので、当時の各教育委員会職員の方々にはご迷惑をおかけしたのではないかと、冷や汗をかく思いである。調査にご協力いただいた職員の方々、各市町村文化財保護審議会委員の相当数の方々は、もはや物故者が多くなり、昔日の感を深くする今日この頃である。

文化財所在総合調査の実施(一)

貸出中の所蔵品

仰観楠察

日本武尊像

木戸孝允筆
松井兼運作
計二点

「兼六公園」の時代展

会期 九月八日(土)～十一月十一日(日)

会場 石川県立歴史博物館

牧歌

宮本三郎筆

マライの少女(南方従軍素描集の内)

宮本三郎筆

安南娘(東京風)(南方従軍素描集の内)

宮本三郎筆

計三点

展覧会 開館一周年記念特別展

「小磯良平と宮本三郎」

会期 九月二十一日(金)～十一月十一日(日)

会場 小松市立宮本三郎美術館

赤絵金彩龍文鉢

浅井一毫作

赤絵龍図花瓶

石野竜山作

色絵金彩花詰蓋物

清水美山作

色絵青海波貝文花瓶

初代中村秋塘作

色絵金彩海龍図遊環花瓶

春名繁春作

釉下色絵遊魚図節壺

初代宮川香山作

赤絵鳳凰文花瓶

初代宮川香山作

計七点

展覧会 板谷波山と近代の陶芸

「創造」と「個性表現」の系譜

会期 十月六日(土)～十一月十八日(日)

会場 茨城県陶芸美術館(笠間市)

企画展示室

第48回日本伝統工芸展金沢展

十一月二日(金)～十一日(日)
(第7・8・9展示室)

陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・その他の工芸の七部門の作品約三百五十点を展示します。今回石川県内の入選は九十六点。これは全都道府県の中で最も多い数です。石川県からは漆芸の坂本康則氏が日本工芸会奨励賞を受賞し、鑑査委員・特待者の中から選ばれた日本工芸会保持者賞は、金工の中川衛氏が受賞しました。

本展では重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)の先生方の作品も展示されます。また講演会、列品解説も予定しています。

入場料

一般六〇〇円 大学生四〇〇円 高校生以下無料

団体料金は各一〇〇円引

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

各地の展覧会

十月

開催日程 休館日 内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

美術の中のごもたち

10/2～11/11

東京国立博物館(東京都台東区・〇三三三三二二 七七八)

現代の布

11/18まで

東京国立近代美術館(東京都千代田区・〇三三三三二二 七七八)

智積院の名宝

9/27～10/28

京都国立博物館(京都市東山区・〇七五五四一 一一五)

第53回正倉院展

10/27～11/12

奈良国立博物館(奈良市・〇七四二二二 七七七)

華麗なるアール・ヌーヴォー

10/2～11/11

花の様式 ナンシー派美術展

サントリーミュージアム天保山(大阪市港区・〇六六五七七 〇〇〇)

キヨツソーネ東洋美術館所蔵 浮世絵展 11/4まで

兵庫国立歴史博物館(姫路市・〇七九二八八 九〇二)

図書閲覧室NOW

新着図書紹介

今月は新着図書コーナーの中から『菅原道真没後千百年 天神さまの美術』(東京国立博物館他編)をご紹介します。

菅原道真を祭神とする天神信仰は、室町時代頃から朝廷や貴族、そして武士や農民にいたる各層に広まってきた。時代の推移とともに多様な信仰の様相を見せ、発展していきました。また江戸時代頃からは、手習いや学問の神様として親しまれるようになります。一方加賀藩前田家と天神信仰は、特に三代利常の頃から深い関係があり、道真に関する資料を積極的に収集したことも知られています。

さて来年は道真没後千百年に当たり、東京、福岡、大阪を巡回する記念展覧会が今年開催(現在は福岡市博物館、十月二十五日まで)されています。本書はその図録です。約二百八十件にも及ぶ道真ゆかりの資料を集めた、この大規模展覧会にふさわしい内容となっており、図版はオールカラー、絵巻などは拡大図も掲載されています。また複数の研究者による論文、作品解説も充実していて、天神信仰や美術を体系的に理解することが出来るものと思われれます。

*開室時間は午前九時三十分～午後四時三十分。貸出し、コピーサービスは行っておりません。

美術館の本

石川県立美術館所蔵品図録 税込定価(円)三、五〇〇
前田利為と尊経閣文庫 一、〇〇〇
前田利為没後400年 利永がきた 桃山時代の美術 一、五〇〇
没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎 一、三〇〇
石川県立美術館所蔵 九谷名品図録(改訂版) 一、〇〇〇
没後15年 一期は夢よ 鴨居玲展 一、〇〇〇
彫刻家 吉田三郎展 一、〇〇〇
花の様式 ナンシー派展 一、〇〇〇

花と緑の名品展 自然との対話 一、〇〇〇

ミュージアムショップで販売中!!

郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。
(☎〇七六 二三一 七五八〇)



(右)裸婦 昭和27年
(左)アラブの旅 昭和50年

企画展TOPIC

画風の変遷その一

昭和五十一年十月にMROホールで開かれた「高光一也人物50年展」の際のポスターに選ばれたのは「裸婦」(昭和二十七年第38回光風会展出品作、当館蔵)でした。このポスターを見たときの衝撃は今でも忘れられません。

その当時、高光先生の作風「アラブの旅」「カサブランカ」に見られる、現代美人を異国の地に配するといった趣のもので、若輩者にはちよつと理解しがたいところがありました。つまり、青年は荒野を目指すといったところ、もつと角が立つような刺激がほしいところが、「裸婦」はまさにその思いに当たっていたのです。真正面にボリユームのある裸婦をとらえ、太く黒々とした線でぐいぐいと輪郭を刻み、ペインティングナイフで思いつきりよく絵具を乗せていく、しかも腕も足も大胆にカットし、それはあたかも古代のギリシヤやローマの手足を消失した彫刻、つまりトルソのように、力強い造形を見せているのです。とても新しく見えました。

この作者がああ美人画をという思いは、当時絵に關心のある若人に共通のものだったといつても過言ではありません。ですから、街頭に貼られたポスターがよく剥がされたと聞いたときには、さもあらんとうなずいたものでした。展覧会場での衝撃は、むろん、ここに記すまでもありません。

その関連で述べますと、昭和五十九年に当館で開催した「高光一也展」の際のポスター作品は、悩んだ末に「アラブの旅」といたしました。先生には相談せず、当方の独断で決めたのですが、出来上がって、高光邸で初めてお見せしたときは、少々手が震えました。先生は「これにしたのか」

と、ちよつと意外だったようですが、すぐに納得していただき、ひと安堵でした。それにしても意中の作品は何だったのかと、今でも気にかかります。もう一つの候補は「フードの女」という、とても華麗な作品だったのですが、当時の作風とはちよつと合わず、今の高光先生をこぞ見たくは、「アラブの旅」が一番だと考えたのですが、先生はどう違っていたようなんです。でも、「フードの女」でもなかったような気がします。これはもう今となっては解けない謎です。

高光先生の作風は、中村研一に師事して帝展に初入選した昭和七年以降、ほぼ十年を区切りが変わっていききました。写実に始まり、戦後抽象美術の台頭に際して前記の「裸婦」に見られる色彩よりも造形を重視した作風に移り、その後、色彩と形体の自然主義的調和を目指し、最後はこれらの集大成ともいふべき、白を基調とした濃厚な作風に達します。こうした様式の変遷に対し、描かれるものは一貫して女性像でした。ですから、高光先生の作品を通して見ることは、女性像の変遷を見ることにほかなりません。このもつとも身

十月の行事案内

《入場無料・いずれも午後一時三十分から行います》

月日	行事	内容	会場
10/6(土)	土曜講座	常設展示室内 花と鳥〜江戸の「美術」と「文学」の交差点 (村上尚子 学芸員)	講義室
10/7(日)	月例映画会	日本の文様(22分) 森口華弘と京都友禪 華麗な元禄の色模様(23分)	ホール
10/13(土)	土曜講座	近代日本の銅像 (北澤 寛 学芸主任)	講義室
10/14(日)	月例映画会	宗達・空間の魔術師(23分) 蒔絵 大場松魚の平文のわざ(32分)	ホール
10/20(土)	土曜講座	自然との対話 秋草と日本人の心 (高嶋清栄 学芸専門員)	講義室
10/21(日)	CDコンサート	バッハのカウンター J.S.バッハ カンタータ第14番・第16番(約40分)	ホール
10/27(土)	土曜講座	洋画家列伝 10 三岸好太郎 (二木伸一郎 学芸主査)	講義室
10/28(日)	月例映画会	友禪 森口華弘のわざ(30分) 西出大三 截金の美(30分)	ホール

「花と緑の名品展」期間中の毎週日曜日、午前十一時よりギャラリー・トークを行います。どなたでもお聞きいただけますが、観覧料が必要です。
全館休館日は十月二十九日(月)〜三十一日(水)です。

次回の展覧会

特 集 茶道具と婚禮調度(前田育徳会展示室)
特 集 石川県の名宝 (第2展示室)
特 集 館蔵優品展 (第3〜6展示室)
十一月一日(木)〜二十六日(月)
以上の展覧会はすべて第18回全国都市緑化いしかわフェア協賛です。

近で普遍的な形を描き続けて、観る者を飽きさせないという剛腕。これは驚くべきことといえましょう。
次回はこの変遷についてももう少し述べたいと思います。
(二木伸一郎 学芸主査)
*「没後15年 高光一也展」
平成十四年一月四日(金)〜二十七日(日)



軍 鶏

長谷川八十

明治42年(1909)~昭和57年(1982)

昭和52年 1977

第31回二紀展

(左)高86.0 幅60.0 奥行34.0(cm)
(右)高80.0 幅56.0 奥行40.0(cm)

一方の足を振り上げ、相手の急所をめがけてまさに飛びかかるようにするものと、片や大地に足を踏ん張り、ぐっと身構えた二羽の鶏の瞬間をとらえた姿です。鋭い目つき、とがったくちばし、力強さを感じさせる足。鶏の激しい動きの様を見事に表現しています。まさに闘う鳥、「軍鶏」にふさわしい姿態で、激しい気質と情熱を込めた制作の中から生まれた作品は、何事にも一徹さを貫いた作者の生き方を写し出すかのようです。表面のごつごつした肌は、作者の特徴ともいえるものです。それにより、この鳥の強さをいっそう感じさせ、緑の地に箔押しされた金の鮮やかさは、ひときわその存在感を際立たせているようです。

長谷川八十は、当初、東京美術学校で高村豊周に鑄金を学びました。帰郷して彫刻に道を改め、その後は彫刻一筋に活躍したことで知られます。戦前は二科展、戦後は二紀展に出品し、文展や帝展といった官展系の作家が多い当時の風土にあつて、数少ない在野の作家の一人として活躍しました。また戦後の混乱の中、いち早く行動を起こし、高光一也らとともに石川県美術文化協会を設立したほか、現在の金沢美術工芸大学の前身である金沢美術工芸専門学校創立に力を注ぎ、自ら教壇に立つて、戦後の石川彫刻界にとって大きな役割を果たしました。(谷口 出 学芸専門員)

ミュージアムショップ通信

「ナンシー派展」は好評のうちに、先日幕を閉じました。アール・ヌーヴォーの一斑点だったナンシーの名品が、質量ともにこれほど充実した形で公開されたのは、これまでなかったんじゃないでしょうか。自然、特に植物からヒントを得た独特の曲線からなる装飾スタイルに、本当にもつ時間を忘れて、すっかり魅了されてしまいました。来館者はやはり女性が多かったようですが、皆さん、きつと満足されたことと思います。

「え、それなら見に行けばよかった」と、今回見逃してしまった人は、大阪(6頁参照)まで追っかけてもらうか、せめて図録の方でお楽しみ下さい。展示室で公開されたすべての作品は言うにおよばず、解説文もめねなく収録。当館へ直接来られて展示指導に携わった、ナンシー派美術館館長さんらが執筆の概説では、貴重な古い写真がたくさん紹介されていますし、それから、これまで知りませんでした、アール・ヌーヴォーに一人の日本人(高島北海)が関わっていたなんて。注目されたその高島北海に関する記事まで詳しく載っていて、とても読み応えのある内容となっています。エコル・ド・ナンシーの旅をもつ一度!



『花の様式 ナンシー派展』
(定価2,200円)

訂正とお詫び

本紙前号(第二一五号)6ページ「展覧会回顧 坂寛二・坂坦道 油絵と彫刻」の記事中に次の誤りがありました。ここに訂正し、ご遺族をはじめ関係各位にお詫び申し上げます。

6ページ上段、最後から一行目

誤 藺山 正 藺舟

休館日

十月二十九日(月)~三十一日(水)

石川県立美術館だより

第二一六号 平成十三年十月一日発行

〒九一〇 〇九六三 金沢市出羽町二番一号

TEL 〇七六(三三一)七五八〇

FAX 〇七六(三三四)九五五〇